

大森地区優秀作文



税の循環は幸せの循環

大田区立大森第八中学校 三年 飯塚 美陽

私の叔父は消防士だ。祖父母の家のハンガーには、いつも立派な消防服がかかっている。クローゼットにはロープやカラビナ、消防の仕事に使う道具が沢山ある。私は小さい頃から、多くの人の助けになる叔父の仕事が憧れだった。そのため私は、叔父と同じ公務員になりたいと思っている。

私は税の作文を書くのをきっかけに、叔父にあることを聞いてみた。それは「消防の仕事と税の関係」だ。税についてあまり意識してこなかったが、叔父はそんな私にもわかるように教えてくれた。消防士が人々を助けている以上、税金によって消防士も助けられている。税金を納める国民がいなければ消防の仕事は成立しない。そしてそれは消防士に限らず、どの公務員も税に助けられている。叔父はそう言っていた。私は衝撃を受けた。納税することで、公務を職とする人を助けることができるとは思わなかったからだ。私は将来の夢である「教員」の仕事と税の関係について興味が湧き調べてみることにした。

私はいつか、中学校の先生になって子供達に英語を教えたい。今は当たり前前に英語の教科書を開き、当たり前前に綺麗な教室で、英語の専門的

な知識を持つ先生の授業を受けられている。しかしそれは当たり前のことではないと知った。まず公立小中学校の教員の給料は、三分の一が国から、三分の二が都道府県から支払われている。これによって地域による財源の差がなくなり、教員が集まらない地域をなくすることができる。

そして教員も生徒も使う教科書や机、校舎の建設など、いたるところに税金が使われている。それらは、日本中の子供が質の良い教育を受けることに繋がる。もし、税金がなければ子供達の学びも成り立たない。「当たり前」の多くが税金のおかげでできているとわかった。

税について調べて私は、教員を志した理由をもう一つ思い出した。祖父が他界する前に病室で係の私達に言った言葉だ。

「お前達には、地域に貢献できて人のためになれる職に就いてほしい。」祖父を診察してた地域病院の医師の給料や、祖父のいた環境は税によるものだ、今ならわかる。

国民全員が税金を納めることは、地域に貢献するための第一歩だ。納められた税金によって人は助けられ、またその人にも沢山の人が助けられる。そんな税によって生まれる助け合いの循環が、私達のくらしをより良くしてくれるのだろう。これは、国民全員が税金を納めるからこそ意味があるのだと思う。私は将来、税に大いに支えられる職である「中学校の教員」になりたい。だからこそ、今納めている税金が、この国の誰かの支えになっていると信じる。そして私は国民として納税の義務を果たしながら、自分自身の夢を追い続けていきたい。